



森が福祉に

できること VOL. 3

—つながり育てる持続的な森林づくり—



NPO 法人 MORIMORI ネットワーク
連携：「あらかわモデル」創造プロジェクト

森を感じることの大切さ

「森」と「福祉」のつながりを創造する事業に取り組み3年目となりました。今年度も、荒川区の福祉施設の職員さんとそれを支援する専門家たちで構成されている団体「あらかわモデル」創造プロジェクトと連携しながら行いました。今年のテーマは“つながりが育む持続的な森林づくり”。「森」と「福祉」のつながりから生まれたさまざまなこと、気づかされたさまざまなことをより多くの方々に伝え、この関係を継続させていくことを目的としました。そして、障害のある方たちと一緒に森林づくりを楽しむこと、その実現に向けての試みを行いました。

都心で、作業所の利用者さんたちにも参加してもらいながら、「森と福祉」をテーマにしたイベントの開催、作業所で木材等を素材とした、自主製品づくりをするための専門家による研修、表現すること、ものづくりをすることの楽しさを感じてもらうためのワークショップ、昨年度整備したバリアフリーな森へ障害のある方に来てもらうこと、里山再生と福祉施設の関わりの試みなどなど。実際にやってみることで学ぶことが多く、たくさんの課題も見えて来ました。何よりも「森を感じること」の大切さを教えてもらいました。森は頭で考えるものではありません。行って見て、感じることなのだと思いました。

「森」と「福祉」という大テーマは、3年では、まだまだ入口の扉のところにいるに過ぎません。障がいのある方、高齢者の方にといろいろと教えてもらいながらまだこれからも歩みつづけて行きたいと思っております。事業の実施にあたり、ご協力をいただきました多くみなさまに心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。



「森と福祉」を地域共生社会づくりのキーワードに

「森と福祉をつなぐ」という全国でも類を見ない貴重な事業に3年通して関わらせていただき、心から感謝しています。

森と関連する障害者施設の視察調査先のコーディネーターとして、個性あふれる5箇所の福祉施設をMORIMORIネットワークや福祉施設のみなさんと訪問しました。また、3年目の今年はGOENenenPROJECTとして、森とウェルフェアトレード（国内の社会福祉フェアトレード）をつなぐ「ウェルフェアトレード・フォレスト」のイベントを都心の大型商業施設であるゲートシティ大崎で開催しました。

この3年間の事業を通して、障害者施設関係者をはじめ、森に関わる方々、行政、企業、アーティスト、一般市民等、多くの方々の協力のもと、ご縁が広がりました。特に「ウェルフェアトレード・フォレスト」のイベントは、集大成になったのではと感じています。

また、一見遠いようにも見えた「森と福祉」の関係が、今では「森と福祉を繋ぐ社会啓発が、日本のこれからの共生社会づくりのキーワードになるのでは」とまで思うようになりました。その理由は3つあります。

一つは、木と向かい合い、木に触れ、森に足を運ぶという機会が私自身増え、あらためて木の魅力、森の持つ奥深い可能性を肌で感じるようになったからです。今では木々に触りながら話しかけ、もっと樹木や森に対する見地を深めたいと思うようになりました。

二つ目は、森と福祉のイベント装飾用のために、40年以上手付かずだった山梨県のヒノキ林の間伐作業を障害者施設職員、MORIMORIネットワークのメンバーの方たちと一緒に手がけることになり、間伐の必要性を実感すると同時に、間伐作業が自分たちでもできるという手応えを感じたからです。

三つ目は、障害者の人たちが間伐材の皮むき作業に夢中になる姿や、葉っぱをクリスマスリースにする作業、木工作品にしていく姿を見ながら、木に触れる作業が障害者に向いていると言われる所以を実感したからです。

全国の障害者施設（作業を換金する就労継続支援施設）では、工賃向上を目指すよう、国の「工賃倍増5カ年計画（平成19～23年）」の実施期間、木工は「お金にならない作業」として切り捨てた施設が多くあると聞いています。「重い障害の人やなかなか施設に通えない人に、まず木工をさせてみるとよい」「木に触るだけでも精神的に安定する」といった効果がわかっていながらも、工賃向上が優先されたということです。

ところが、今度は国が新たに「地域包括と共生社会の実現」を打ち出してきており、障害者施設も地域の多様な人々の受け皿となるよう、柔軟なあり方が求められるようになりました。

まさに今年の視察調査先の福祉楽団さんでは、薪の需要を地域で増やしながらか間伐を障害者の仕事に繋げる「地域共生の自伐型林業」の試みで、障害者や高齢者のような方々が地域で役立つ仕事をする好事例でした。

3年関わらせていただいたことを、私自身も今後の地域共生社会づくりのお手伝いに活かしていけたらと思っています。

■ 森と福祉のイベント

森と福祉を結ぶエガオとゴエン ウエルフェアトレード・フォレスト



「森」と「福祉」を結ぶイベントが2017年12月4日～12月8日、ゲートシティ大崎 B1 アトリウムで開催されました。おそらくこのような企画のイベントは全国でも初めての試みだと思います。
企画・プロデュースはGOENenPROJECT、これまでも福祉施設を支援するイベントを手がけて来たグループです。今回は25の作業所が参加。作業所の利用者さんたちが作ったものを販売するだけではなく、ワークショップ、セミナー、音楽会などともりだくさんでした。MORIMORI ネットワークは環境づくり、ワークショップなどの企画で参加しました。

● 小さなログハウス ●



MORIMORI ネットワークが設置した小さなログハウスはこのイベントのシンボル。子どもたちにも大人気でした



タイトルは一文字づつ荒川生活実習所で色塗りをしました



ログハウスの中は子どもたちの遊び場



前川健彦さんが撮影した森の写真を展示しました

● イベント会場の様子 ●

会場には全国各地の福祉作業所の利用者さんたちが思い思いに作ったものたちが、いっぱい並びました。そのユニークな感性は驚きの連続、手づくりのあたたかさ、やさしさが伝わってきます。



● 森の音楽 ●

木でできた楽器を中心とした演奏とお話
わーどふるーと DUO と夢野瑞穂さんによるライブ演奏。

「森」をテーマにいただいたので、楽器は森から生まれた天然素材の笛、リコーダー、ケーナ、サンポーニャ、篠笛など。リコーダーは黒檀から、ケーナは竹から、サンポーニャは南米の葦で出来ています。リコーダーは、黒檀の他にも ツゲ、カエデ、クルミ、ナンなどからも作られていて、それぞれ少しずつ木によって音色が違うそうです。面白いですね。



わーどふるーと DUO のお二人。野田晴彦さん（左）と赤星ゆりさん（右）



サンポーニャは南米の葦から出来ています。どんな音色でしょうか

夢野瑞穂（ゆめのみずほ）さんによるウクレレの演奏



●セミナー&ワークショップ●

屋内での5日間のイベントでは、ホンモノの枝や木を持って来ても枯れてしまいます。そこで思いついたのが、風船の森。バルーンアートをやっている、ひやしんす城北の旗野哲也さんに指導してもらい、みんなで緑色の風船の木をつくりました。



まずはみんなで風船をふくらませていきます。
口でふくらますのは大変ですね。頑張ってください！！



だんだんと風船を取り付けていきます。木にみえてきましたね



完成です！風船の木が出来上がりました。会場も賑やかな感じになりました。



子どもたちは風船で遊ぶのに忙しい

日替わりでいろいろなセミナー&ワークショップが開かれました。

●自然茶（じねん）茶を知るセミナー●



お茶を楽しむ会を主宰する近藤美知絵先生に自然（じねん）茶のお話を伺いながら、お茶をいただきました。自然（じねん）茶とは、里山に自生する野生のお茶。おいしくて健康にもよく、懐かしい香りがします

●小さなお花畑を作ろう●



好きな花を選んで、自分でお花畑をつくります。お花にさわるとみんないい笑顔になりますね

●ヒノキの葉でリースを作ろう



山梨にある作業所みとおしさんが、ヒノキの葉をたくさん山梨から運んで来てくれました。その葉を使ってクリスマスリースづくり

●ネームプレートを作ろう！●



滝乃川学園&SOU さんによるネームプレートづくり。
お花畑に自分の名前を付けています

●エステの森●



エステのサービスもありました。
いい香りに心もからだもリラックス！



●森のトワル●



このイベントでは、スタッフはかわいいトワルを着ていました。トワルってご存知ですか？洋服を仕立てるときに、仕上がったときのデザインやサイズを確認するために作られる仮縫いの服のことです。でも、それがすんだらトワルの役目も終わってしまい、破棄されてしまいます。それでは、もったいない！ということで、その再利用を推進している、ファミリーメイク会社のTADFURさんよりトワルをご提供いただき、利用者のみなさんが思うままの森を描いたのが「森のトワル」。とってもかっこよくて、ユニークでセンスのいいスタッフ用の服が出来上がりました。この「森のトワル」を身にまとうことで、みんなが、木になり花になり、そして会場を森にしました。



みんな自分の森のイメージを描いていきます。つぎつぎに素敵な森のトワルが誕生しました



出来上がりました！



着てみました。いかがでしょ



お気に入りのトワルを着たファッションショー



トワルを着て販売するスタ

「森のトワル」プロジェクトには、やすらぎの杜 PoMa(練馬)、アトリエ福花(渋谷)、小茂根福祉園(板橋)、萌友(神戸)、カナウ(神戸)、からふる(川口)、joe's world(岐阜)、滝乃川学園(国立)、イタル成城(成城)の計9事業所の利用者さんたちが参加してくれました。ペイントしたり、字を書いたり、刺繍をしたり、染めたり、布を貼ったり・・・と、自由な表現によって生まれた、実に様々な「森」たち。「ああ、こんな見方、感じ方、表し方もあるんだな」と、その多様さを感じ

■「森」と「福祉」がつながる時間 ■

荒川生活実習所で利用者さんたちと一緒にワークショップをやり初めて3年目になりました。目の前に今日の教材が置かれて、説明が終わるやいなや、みんないっせいに絵筆を持ち、のこぎりを持ちます。そのとまどいのなさやパワーに驚いていると、次から次へと作品が出来上がっていきます。3年前に始めた頃はみんななかなか絵筆を持たなくて、いつまでもジーンとしている人もいたのに。今は違う！この時間を「待ってました！」とばかりに部屋中に表現者たちのエネルギーが溢れていきます。

●「森と福祉」のイベント看板づくり●

イベントのメインのタイトル看板をつくることになりました。タイトルは「森と福祉を結ぶエガオとゴエン」。会場に飾られるのですから頑張りましょう。



一文字、一文字切り抜いてくれた文字に色を塗っていきます

土台に文字を貼付けて、立派な看板になりました！

●作業所内の表札づくり●

今日は作業所内の部屋の前にかける表札をつくることになりました。殺風景な建物にきれいな色の看板をかけたいという発想です。



じむしつ、あかね。こはく・・・いろいろな名前の表札が出来上がっていき



この表札をかけたら明るくなりそうですね。楽しみ！



ひたすらに表札の文字を切り抜く齋藤さん。裏方の苦勞あつての表札です

●サークルベンチをつくる●

《組み立て》

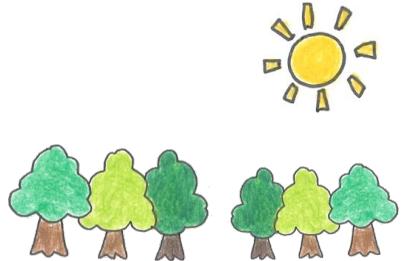
今年は「みんな」で何かを作るという試みをすることになりました。そこで、みんなで座れるベンチづくりに挑戦しました。一人一人で作品を創るのも楽しいけど、みんなで一つのものを創り上げるのは、また別の楽しさがあります。



ボクに、私に、まかせて下さい。
ノコギリも穴開けも得意です！
素早くベンチが仕上がっていきます。
集中力のスゴサは抜群です。



ベンチの1つのパーツが出来上がりました！



《色塗り》

組み立てが終わったベンチに色を塗ります。ベンチに大きな丸をいろいろな色で描いていきます。





わあー！
いろいろな丸が出来上がって
いきます。どれも個性的です
ね。



ベンチが会場に設置されました！
どんな人が座ってくれるでしょう
か



ワークショップでも大活躍



丸くつなげると大きなドーナツのようで

+



タテにつなげると何だかへびのよう

■ 自主製品のための研修 ■

● 木のアクセサリーづくり ●

作業所のものづくりの中に、木製品を加えたいということで、まずは、木のアクセサリーづくりを行いました。講師は FLAGS デザインの松田光二さん。福祉施設から質の高いものを生み出そうと、研修を引き受けて下さいました。研修は町屋あさがおで行いました。

【1回目 職員さんへの研修】

利用者さんたちが作っていくためには、まずは、職員さんが作り方を覚えます。

木のアクセサリーづくりの手

順



講師の松田光二さん



① ウッドビーズを紙ヤスリで磨く



② ウッドビーズの穴に爪楊枝を差し込んでボンドでとめる。これで作業がやりやすくなります



③ エナメル塗料を塗る→乾燥させる→磨く（何度も繰り返す）



④ パステルで色をつける



出来上がりの見本で



⑤ 透明アクリルを塗る



⑥ こんな風にかわかすと便利！カラフルな木のビーズが並びます

【2回目】

いよいよ利用者さんへの研修です。まずは、得意そうな人に学んでもらいます。



同じようにやってみます。きれいな色を塗る作業は楽しい。たくさん出来ました！

【3回目】

ビーズの色塗りの仕上げです。



色塗りしたビーズにやすりをかけて、またパステルで色をつけて、アクリルを塗って・・・何度も繰り返すとどんどん個性的な仕上がりになっていきます。



自然から生まれたモノづくりを

「森と福祉」の事業を通じてワークショップや販売会等たくさんの事を経験する事が出来ました。普段、自然と触れ合う機会が少ない中で、自然について考える事ができて、木の素材に触ってみる、使ってみるという貴重な体験をする事が出来ました。

障がいのある方々が、それぞれの能力を生かして働いて自立を目指していく中で、その仕事の中身が「自然から生まれたモノづくり」になればいいなと思いました。みなさんが自信を持って取り組めるモノづくりに挑戦していきたいです。ワークショップで教えていただいた木工製品をみなさんと完成させ多くの方に手に取っていただけるような物にしていきたいと思っております。改めて自然の恵み・材料について考える良い機会になりました。

今後は、子供から大人まで、様々な方々と地域の中で自然について考える・触れ合える活動が出来たらいいなと思っています。

■ 森を楽しもう ■

(埼玉県飯能市風影)

子どもたちが森にやってきた！

不登校気味であったり、家庭環境に支援が必要な子たちが週1回手作りの食事をともし、勉強をし、家庭的な人間関係の中で過ごすといった居場所づくりをしている「子ども村：中高生ホットステーション」の小中高校生男子7名と20歳代男性スタッフ3名とお母さん1名が森に遊びに来てくれました。朝はあいにく雨が降っていましたが、子どもたちはまったく問題にしません。森へ着いたことが一番！です。



3日後にたくさんの方々が森に来るイベントがあります。多少の雨ぐらい何でもない！ 蕨を刈ったりして森の中をきれいにしています。子どもたちのパワーで、森が蘇っていきます



生まれて初めて薪割りをしました！
面白いなあ



森の中にはいろいろな遊びの発見がありま



丸いツリーハウスを黄色い葉で飾り付け



川の中に何かいるよ！

小さなログハウスにも飾りつけします



枝やシダを使って屋根をつくります



まるで童話の中のお家のように

いろいろな人と出会い、電車に乗ったり自然の中で過ごしたりと豊かな経験をしてもらいたいという思いと MORIMORI ネットワークでの活動がつながりました。子どもたちは森にきて野生に返ったか？のように元気いっぱい大はしゃぎ。小雨をものともせず、ノコギリやナタを手自由闊達に森を歩き、枝を集めてログハウスの飾りつけをしたり、薪割りなども体験しました。この元気に天気もだんだん回復。子どもたちのパワーで森が若返った一日でした。

■ 森の活動 ■

● お茶摘み ●

昨年のもみじ祭りのときにいらした近藤美知絵先生が、この風影（ふかげ）の森にもたくさんの自生のお茶があることを教えてくださいました。近藤先生は里山に自生するお茶＝自然茶（じねんちゃ）を求めて歩いていらっしゃるんです。「これもお茶の木ですよ。お茶は摘んでくれるのを待っているんです。摘んでもらわないと新芽が出ないから。この木は、ここに 100 年くらいいるんですよ。」と。いつも来ているこの森にお茶の木があったなんて！ それでは、近藤先生の指導でお茶摘みをしようと、集まりました。



頑張ってお茶の葉を摘みました



釜炒りをしてみます。熱い!!!



葉っぱが熱いうちに揉んで乾かします。さて、どんなお茶ができるでしょうか。秋にいただくのが楽しみです



ていねいに指導してくれる近藤先

● ワークショップの準備 ●

荒川生活実習所でやっているワークショップの準備作業を手伝いに来てくれました。ワークショップで作るベンチの材料を切り出していきます。



丸ノコを使うのも初めての体



森の夜は話がはずみます

●秋の森林体験 もみじ祭り

風影の森では、木々が色づく季節には毎年「もみじ祭り」をやります。今年もたくさんの方が集まりました。紅葉した枝を集めてツリーハウス、ログハウスを飾り、みんなそれぞれに楽しみます。初めて車いすでさわさんが参加してくれました！



窯に火が入りました。ピザを焼きます



こもればカフェも今日は開



おいしいシフォンケーキとコーヒーをど



今日のバリスタの斎藤さん



初夏に摘んだお茶をいただきます
香りはどうでしょうか？



さわさんと友人のグミさん

【森レポート】

1ヶ月くらい前に友人グミに森に誘われた。私もここしばらく「山はムリでも、森くらい行ってみたい」とねだってた。森！サイコーだった。空気がいい。両親共に中央区出身の私には清々しい。いうまでもなくゴツゴツガタガタの森をおんぶはなかったけど、車いすをあげてもらったり、グミに手を引いてもらったりして超満喫！

これが問題なくスルスル行けたらつまらないよね！ってグミと確認できてサイコーだった。帰りは家の近くまで送ってくれた。ありがと一。お世話になりました。また私が行っても大丈夫な時に誘ってね。今の身

■ 森と福祉の新しい出会いを学ぶ ■

● 農業 × 林業 × 福祉の新しい試み ●

< 自伐型林業と障害者による里山再生をつなげる >

千葉県香取市に、里山再生に「自伐型林業」を取り入れ、持続可能な森林経営に福祉の視点から取り組もうとしている社会福祉法人福祉楽団があります。現在は「恋する豚研究所」という、ちょっと変わった名前の就労継続支援A型事業所をやっています。恋する豚とは、安全と環境に配慮し、幸せで、すこやかに育ち、恋をしているような豚のことだそうです。この他にも老人デイ+児童デイ+訪問介護+寺子屋という機能を合わせ、地域の人々の居場所となっている複合施設も運営しています。

高齢者施設に通うお年寄りの話から、山林の維持管理が難しいという地域の課題がわかり、近隣の荒れている里山をなんとかできないかと思ったことをきっかけに、その課題解決として、自伐型林業を障害者の仕事として結びつけることを発想しました。障害者が間伐や下刈りの仕事をしながら、その間伐した木材を薪や木材燃料に加工し、薪ストーブなど普及させる仕組みをつくりながら、里山再生につなげていこうという試みです。

自家伐採によってコストをかけず、幅広い就労の機会を持ち、環境保全型の地方創生林業が期待される「自伐型林業」に、障害者が活躍できる「林福連

< 幅広い連携が新しい出口をつ

くる >

さらに、間伐材の出口として、間伐材は乾燥させるのに年月

がかかりますが、生木の薪でも燃烧できるボイラーを見つけ、

地域施設の暖房として普及させる仕組みづくり、クリエイターと

の連携による間伐材を使用した家具の製造販売など構想し

ています。また、障害者施設で仕事を作る場合、どうしても

古ぼけた作業から考えて、いままでが、きんぐと川ト



社会福祉法人 福祉楽団
栗源協働支援センター
センター長 山根正敬さん

●感想●

小型ユンボや軽トラを駆使して展開する自伐型林業は、それ自体では維持管理は難しく、他の仕事と合わせて展開することで、事業の持続性が維持できるという説明は、非常に説得力があった。「恋する豚研究所」というネーミングもそうであるが、オフィスやレストランの建物も含めて、デザイン性にも力を入れているのは、新しいビジネスプランとして有効な考え方だ。

(建築家 60代男性)

地域の課題である森林保全、耕作放棄地に元気な高齢者や障害者の雇用を掛け合わせて循環型社会実現を目指す姿勢は望ましい今後の地域の在り方だと思います。間伐を行う自伐型林業だからこそ高齢者、障害者が一部を担うことができ、また兼業もできます。

(生活者ネットワーク 50代女性)

今後福祉を充実していくためには広い視野で俯瞰していく必要性を強く感じました。それは決して新しいことではなく、既存の事柄を今までとは違う角度で見つめなおすことなのでは。福祉にせよ、林業にせよ、人材不足などがニュースでは嘆かれています、そこに新しい道を切り開いていく可能性を見出していきたいと思いました。

(福祉施設職員 40代男性)



里山に囲まれた恋する豚研究所の外観



恋する豚研究所の入口



レストランのお昼ごはん
毎日予約でいっぱいとのこと



薪も美しく並んでいます

森をみんなで楽しみたい

森に入ると私たちはいつも、いやされるだけでなく、懐かしさも感じます。

日本の森は、昔、澄みきった空気に満たされ、清冽な水が流れ、動物や魚だけでなく果実や山菜などの食材も豊富だったといわれています。

たとえば縄文時代の森は、私たちの先祖のイノチを1万4000年にもわたって支え続けてくれました。この幸せな時代の記憶が、今を生きる私たちのDNAにも残されているので、森の中では懐かしさの感情に満たされるのです。

森の仲間と、足腰が不自由で森に来られない障がいのある人や高齢な人たちを、私たちの森へ案内したいね、という相談をして、車いすでも動きやすいように森の道を整備し、介助の人の動きも考えて、バイオトイレの入口を2倍の広さに広げるなどの準備をしました。車いすに乗った女の子が、生まれて始めて森におよばれたとき、色づいた樹々が華やいだ森の雰囲気をつくってくれていました。そして、女の子が心から喜んでくれたので、一緒に過ごした私たちも幸せ気分いっぱいになりました。



小島さんが設計した球体のツリーハウスで

■「森が福祉にできること」これまでの活動 ■

【2015年】

～作業所と一緒に森からの創

作業所と森の出会い

訪れた福祉施設は、森とはほど遠い殺風景なところでした。ここに緑の風を吹かせようという試みが始まりまし



木のポットに花を生けます
施設の玄関に花かかしを飾りました

ワークショップ

森にある枝や、木材、竹を使って何か作ってみようとはじめました。



竹のお箸を作ります。自分が使うのですから真剣です



ノコギリを使ってみます。意外な楽しさを感じます。

福祉施設の職員さんたちの森林体験

福祉施設の職員さんたちに森林を体験してもらいました。森と福祉につながるはじめての一步で



間伐を体験します。木が倒れるところを初めて見てビックリ！



間伐した木を運び出します

視察 ココファームワイナリー

1950年代、当時特殊学級の教師だった川田昇さんと中学生たちによって、急斜面の山を開墾してつくられました。1984年にワインづくりをスタート国際的にも評価されています。(栃木県足利市)



斜面にある葡萄畑

視察 さんわーくかぐ

小田急線の「善行」駅から住宅街を歩いて5分。住宅街の中に周囲とは異空間の広場がありました。その中に竹林、畑、作業場、絵や手芸のためのアトリエ、鶏小屋、陶芸の窯、薪、堆肥、丸太、木彫りの彫刻などあらゆるものがあります。2008年彫刻家の藤田さん一家がアトリエだったところを使って障害のある人たちが集まれる場所をつくりました。



上原巖先生（東京農業大学教授）のお話

障害のある方への森林療法についてのインタビューをしました。森林療法の専門家である上原先生は、障害のある方たちを対象とした森林療法も行っています。作業療法、リハビリテーション、リラクゼーション、カウンセリングいろいろなことを森の中で行います。人が森林に入ること、



地域の森林公園での定期的な散策



間伐したヒノキの枯損

【2016年】

～こころとからだをやさしくつつむ“バリアフリーな

“バリアフリーな森”を

車いすの方も楽しめる森林の整備

森の小道に入っていくと MORIMORI ネットワークのフィールド、風影の森があります。鳥の声や川のせせらぎを聞きながら森を感じながらガタゴトと車いすが行きます。「森を感じたい!」という気持ちを大切にしたい“バリアフリーな森”とは、



障害のある方と森林療法

上原巖先生（東京農業大学教授）による講演とワークショップ

森林療法の第一人者である上原巖先生から、知的障害・精神障害のある持つ方の森林療法を中心にお話を伺い、実際に一緒に森へ行き森林療法を体験しました。



森を歩く



～森の癒し体験～



クリスタルボウルの演奏

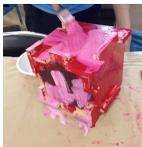


自然茶を楽しむ

「森」と「福祉施設」がつながる時間 ワーク



森のオブジェ



フラワーポット



ベンチ



大きな板絵

これまでの「福祉」の概念を超えた試み

フラッグデザイン

福祉施設から生まれる質の高いものづくりを目指してものづくりを行っています。ゆったりとした環境の中でゆっくりやります。一つ、一つに個性が溢れています。

(東京都府中市)



クラリスファーム

1993年に埼玉県熊谷市で知的障がい者の生活寮としてスタート、障がい者とともに生活をし、働き、彼らが社会の一員として活躍できるようにソーシャルファームとしての挑戦を続けています。



～NPO 法人 MORIMORI ネットワークの活動～

山村と都会の暮らしを結び、次世代によりよい環境を手渡したいと願い、1995年に設立しました。山村と都会に暮らす人々の交流を通じて森林の保全や再生、都市に暮らす人々の自然体験への機会や心身の健康への力となる場をつくる活動を行っています。森林に関心のあるさまざまな方たちとゆるやかな繋がりを作りながら未来の森のあり方、暮らしのあり方を模索しています。



事業内容

- 1 森林と都会を結ぶ交流事業
 - ・ みんなのセラピーランド
埼玉県飯能市風影
 - ・ バースデーランド
秋田県北秋田市森吉山
岩手県岩泉町早坂高原
栃木県矢板市
 - ・ 子どものための「森の基地づくり」
埼玉県飯能市風影
岩手県岩泉町配羅郷
- 2 エコの発想でつくる 森の中の造形物づくり
ツリーハウス バイオトイレ ウッドデッキ
サークルハウスなど
- 3 森の本 出版・編集
 - ・ 日本の林業（編集 岩崎書店刊）
 - ・ 子どものための森のガイドブック
 - ・ 「森と水の国 岩泉」
- 4 森と福祉の連携事業



バイオトイレ(埼玉県飯能市)



作業所の職員さんの間伐体験



森吉山パークステラントで植樹



球体のツリーハウス(飯能市)



岩手県岩泉町森の実験室基地

森が福祉にできること VOL. 3

～つながりが育む持続的な森林づくり～



NPO 法人 MORIMORI ネットワーク

〒102-0093 東京都千代田区平河町 1-3-7 アルタ平河町ビル 2F

TEL 03-5226-3305 FAX03-5226-3322 <http://mori-mori.org>

発行日：2018年3月31日

発行者：NPO 法人 MORIMORI ネットワーク

連携：「あらかわモデル」創造プロジェクト

協力：荒川生活実習所 荒川福祉作業所 NPO 法人かがやき シェイドツリー・ユニット
GOENenPROJECT 松田光二 旗野哲也 さわさけいこ 福田めぐみ 椎崎耕治 社会福
祉法人福祉楽団 ゲートシティ大崎管理組合 (株)TADFUR お茶を楽しむ会 グルー
プハッピースマイル わーどふるーと DUO 社会福祉法人章佑会 やすらぎの杜 PoMa

制作：NPO 法人 MORIMORI ネットワーク 長井八美

写真：前川健彦 荒川恵 他

デザイン・イラスト：渡辺なほみ

「あらかわモデル」創造プロジェクト

東京都荒川区を中心とした福祉施設等の職員と支援する仲間で構成。情報交換・研修・研究等によつて、福祉施設をとりまく課題解決と技術力・支援力向上を目指して活動している。

平成 29 年度 新たな木材需要創出総合プロジェクト事業
木づかい・森林づくり活動の全国的な展開のうち森林づ